

日本リハビリテーション 病院・施設協会誌

2022年5月発行
(年4回発行)第183号

2022年[春]

Japan Association of Rehabilitation Hospital and Institution



■ 巻頭特集

2022年度診療報酬改定における 見直し事項について

■ **ル ポ** 第9回慢性期リハビリテーション学会 オンラインで開催される

■ **REPORT** 病院・施設がハラスメント対策にどう取り組むか

ZOOM IN 会員病院・施設

医療法人銀門会 甲州リハビリテーション病院



一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

CONTENTS

- 3 **巻頭特集**
2022年度診療報酬改定における見直し事項について
川嶋 康平
- 11 **巻頭言**
協会調査への更なる協力を期待して
徳永 能治
- 12 **ルポ** **第9回慢性期リハビリテーション学会 オンラインで開催される**
浦 信行
シンポジウム1 プレフレイルからのリハビリ ～地域からの特徴ある取り組み～
- 16 **REPORT** **事務管理職が身につけるべき事業継続の視点**
日本リハビリテーション病院・施設協会研修委員会(実務班)
- 18 **REPORT** **病院・施設がハラスメント対策にどう取り組むか**
大住 雅紀
- 20 **REPORT** **認知症行動心理症状(BPSD)を回避するコミュニケーション**
田中 志子
- 22 **トピック** **地域における臨床研究のススメ5 比較の質その1**
紙谷 司
- 24 **連載** **理事が語るシリーズ リハビリテーション科医を活用する**
大串 幹
- 26 **連載** **地域リハ塾活動報告 オンラインによる交流と実践報告の紹介**
地域リハ塾1ブロック
- 28 **追悼** **石川 誠先生を偲んで**
井手 睦 佐藤 吉沖 平田 好文 若林 秀隆 公文 敦 皆川 晃慶 首藤 貴 林 拓男
- 32 CURRENT TOPICS **厚労省関連ニュース**
- 33 **ZOOM IN** **会員病院・施設**
医療法人銀門会
甲州リハビリテーション病院
(山梨県)
- 38 **Information**



協会調査への 更なる協力を期待して



徳永 能治

日本リハビリテーション病院・施設協会 常務理事
一般社団法人是真会長 崎リハビリテーション病院法人本部 診療統括

協会の調査には、いつもご協力いただき大変感謝申し上げます。今回の巻頭言では、これまでの調査・検証委員会の調査・検証活動を紹介し、当協会への引き続きのご協力をお願い申し上げます。

調査・検証委員会は12名で構成され、以下の4つの調査に主たる担当者を配置し運営している。

「会員施設調査」は、年度初めに行う協会会員施設の基本項目の集計である。各施設の動態を把握し、特徴を明確にし、協会内の各種委員会活動等の基本的情報提供に貢献している。令和4年度より、各施設からいつでも効率的に情報入力や修正ができる新システム体制を用意し、今後の調査への参加増に期待している。

「回復期から生活期までのリハビリテーションの効果に関する実態調査」は、回復期退棟後のADLの変化やリハビリテーション（以下、リハ）の提供等の調査を通して、生活期リハの成果に影響を及ぼす要因を分析し、質の向上につなげることを目的としている。

平成28年度より毎年実施し、調査結果について、リハ・ケア合同研究大会や本誌で報告してきた。診療報酬においては、平成30年度診療報酬・介護報酬改定の際に回復期リハ病棟退棟後3か月以内の患者が、疾患別リハにおける算定日数の上限除外対象へ追加することに貢献した。また、介護報酬においては、リハマネジメント加算による、通所リハ・訪問リハへの医師の詳細な指示に

対しての評価につながったものと考えている。リハに関わる医師の定期診察は患者の生活範囲拡大LSAに優位に貢献することも示すことができた。

「新型コロナウイルス影響について調査」は、昨年から今年にかけて行い、各会員施設のより良い患者支援や病院・施設運営につなげていくために、3回実施した。1回目（令和2年3月～6月）の調査結果は本誌の第178号で、2回目（同年7月・8月）結果は179号で報告した。

令和3年度は、新たに「地域包括ケア病棟退棟後の生活期リハ効果に関する実態調査」を実施した。多様性を特徴とする地域包括ケア病棟におけるリハの実施状況や、退棟後継続した生活期リハの実施状況について、またその効果については、十分に調査が行われていないのが現状である。本調査では、地域包括ケア病棟に入棟し、リハの対象になった患者の、入棟前の状態や入棟中のリハの実施状況、退棟後のリハ実施状況、生活機能評価の経過を調査する。回復期調査といろいろな点で異なるリハの効果が分析でき、有益な情報を提供できるものと思う。

最後に、リハの重要な項目の解析を行い、その有用性を訴えるためには、可能な限り多くのデータの集積が必要である。今後とも会員の皆さまの協会の調査へのご協力を引き続きよろしくお願いしたいと思う。

※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<https://www.rehakyoh.jp/join.html>